



ポラリス(北極星)を目指すには
北極星を見分けること。
目指すところ(方向)は一緒でも
やり方はそれぞれ多種多様。
一人一人の思いをエッセイの形で
伝えたい。

ときめき Beating Kashima 鹿島

新中期ビジョン2019

常務理事 事務部長 下瀬 宏

年号も令和に変わり気分一新、新たなスタートを迎えました。今回の改元は平成の時とは違い、天皇陛下の譲位のお祭りとして明るく行われたことがとても印象的でした。

さて、公仁会では今年度、新中期ビジョン2019が作成されました。主なところでは、まず、第1は医療・介護の質の向上です。亜急性期から慢性期、在宅まで幅広い病状の患者様を診る鹿島病院では医療安全・院内感染はもちろんのこと、質では一段のステップアップが必要です。来年1月には5年ぶりに日本医療機能評価機構の病院機能評価3rdGV2.0を受審します。これも病院の問題点を外部の目で評価して貰い、指摘を真摯に受け止めて改善することで「質」の向上を計ることを目的としています。

第2は地域連携です。公仁会内の医療、介護の連携は言うまでもなく、特に松江市橋北を中心とした地域との連携はますます重要になっています。先般、7月3日に鹿島病院主催で地域連携の会を開催したところ、開業医の皆さんをはじめ薬剤師、保健師、ケアマネージャー、看護師、介護福祉士、社会福祉士等多彩なメンバー約100名にお集まり頂き、鹿島病院の現状を理解して頂くことが出来ました。アンケートでも好意的なご意見をたくさん頂きました。皆さんとコミュニケーションを取りながら、独りよがりにならず前に進んで行きたいと思えます。今後も地域でお互いの理解を深め連携を密にしていくためこのような会を継続していく予定です。

第3は人材の育成と働き方改革への対応です。質の向上はお題目で唱えてもななんとありません。1番は人です。人材を確保するのみではなく、職員には積極的に研修、研究に参加して、自ら研鑽を積んでレベルアップして貰いたいと思えます。また、有休休暇取得5日以上が義務付けられました。創意工夫しながらお互いを尊重し、休暇もしっかり取って英気を養ってメリハリのある生活をして貰いたいと思えます。

今後3年間このビジョンを基本に財団運営を行って行きますので、ご協力をお願いいたします。



医療法人財団 公仁会

訪問看護ステーション いつくしみ



紹介

訪問看護ステーションいつくしみ 看護師（在宅看護専門看護師）
吉岡 理枝

訪問看護ステーションいつくしみでは、看護師や療法士が利用者様のご自宅に訪問し、その方に必要なケアやリハビリの支援を行っています。病気や障がいがあっても、自宅で自分らしく生活したいという思いは、どなたにとっても大切な願いであり、私たちは利用者様のそのような思いを大切にケアを提供しています。当ステーションの利用者様のご病気で多い疾患は、認知症やがん、脳梗塞や脳出血などの脳血管疾患です。また、神経難病や骨折後の方など、様々な疾患をもつ方々を支援しています。ご自宅で最期の時間を大切に過ごしたいという方々への看取りの支援も行っています。



院内勉強会の様子



理学療法士による筋カトレーニングの様子

の時間を大切に過ごしたいという方々への看取りの支援も行っています。

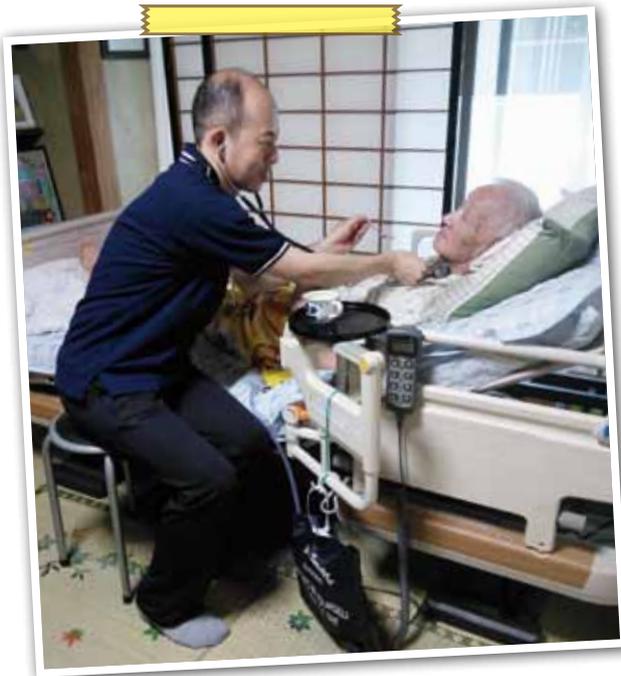
当ステーションでは、すべての利用者様へ、体温測定や血圧測定といった病状の観察、在宅療養や介護についての相談、お薬の管理についての相談、お食事や水分の摂り方のアドバイス、ベッドや手すりなど

の療養環境についてのアドバイス、主治医の先生やケアマネジャーさんへの連絡、緊急時にいつでも電話相談や訪問を行う24時間緊急時対応を行っています。加えて、必要な方には入浴や排泄のお手伝い、使用されている医療機器やカテーテルやチューブの管理、ストーマのケア、リハビリテーションを行っています。最近はお薬の管理に困られている方が多く、地域の薬局さんとの連携に力を入れています。訪問看護を利用することで、これまで病院や施設で生活されていた方が、ご自宅で過ごすことができるようになる方がいらっしゃいます。特に、24時間緊急時対応は、休日や夜間にも困ったときにはいつでも相談することができ、利用者様やご家族に喜ばれています。

利用者様は、鹿島病院へ外来通院されている方、鹿島病院や急性期病院に様々な理由で入院され、退院後から利用されている方、地域の診療所の先生やケアマネジャーさんからのご紹介で利用されている方などがいらっしゃいます。訪問の回数は、一カ月に1回の訪問の方から、毎日訪問が必要な方まで様々で、その方の状態に合った回数をあらかじめ決めさせて



看護師による
シャワー浴介助に向う様子



言語聴覚士による嚥下訓練の様子

いただいています。訪問看護は、利用者様の病名や状態によって、利用方法や利用料金が異なります。ご利用を希望される方は、当ステーションまたは担当のケアマネジャーさん、または病棟スタッフまでお気軽にお声かけください。一人でも多くの方が、ご自宅で自分らしく楽しい時間を過ごすことができるよう、スタッフ一同心をこめてお手伝いさせていただきます。

鹿島病院紹介の会

(地域包括ケア病床を中心に事例紹介と意見交換)

医療相談部 小林 裕恵



H29年10月に地域包括ケア病床を開設して、もうすぐ2年になります。この間、地域から400名以上の患者さんの紹介をいただきました。この地域包括ケア病床を、さらに皆さまに知ってもらうために、7月3日(水) 島根県職員会館で「鹿島病院紹介の会」を開きました。今回の会は松北地域の医療・福祉関係者の方々を対象に開催したもので、98名の方に参加頂きました。

会ではまず、坂之上一史院長から鹿島病院の現状紹介があり、続いて、地域包括ケア病床について次の2つの症例紹介をおこないました。

①「急性期治療後のフォローと退院支援」

佐々木なつきMSW.

②「終末期の在宅生活を支える入院」

亀山庸子MSW.

その後は参加者の皆さんから、質問や感想をお聞きしました。



頂いた感想を紹介します。

○鹿島病院の詳しい機能について知る事ができ、大変有意義でした。特に鹿島病院との連携を図る際にどのような病態の方を紹介させていただくかというポイントを知ることができた点でも有難かったです。(看護師)

○坂之上先生の説明で、鹿島病院の全体的な概要を知ることができました。具体的な事例で患者さんにとってより良い療養をするための選択肢が増えた実感しました。自宅からの入院が意外と多い印象でした。訪問診療の状況も関心があります。外来患者さんの様相や、再入院の方などのことも知りたいです。(保健師)

○実情に即した紹介でよかった。これからは問題多い(医療者側が改善すべき点が多い)症例が提示できるとよいかも。社会的な構造問題、看取りができる施設が少ない、など気づきの点、皆が考えれば良いかな(医師)

○地域包括ケアのことがよくわかり、「時々入院ほぼ在宅」になれるよう地域で協力しながらやっていきたいと思いました。医療行為が必要な患

者様を少しでも薬局が手伝える形になればよい、まだまだ薬局が関与していないことが多く、力不足を感じました。ポリファーマシーに関しては、医師とかでも連携できればと思いました。

(薬剤師)

○病院である一方、地域包括ケアの活動もあり、興味があり、参加させて頂きました。私事ですが、知り合いも骨折でお世話になりました。85歳と高齢ではありましたが、見事に以前と変わらぬ生活ができています。リハビリをしているところを見学したこともありましたが、スタッフの方々に活気があり、安心できました。本日の話を聞き納得できました。(薬剤師)

○事例を通して入院の活用例を知れてよかった。退院→在宅といった一方的な流れしか頭になかったのも、一助としての入院は勉強になった。(ケアマネジャー)

○地域の特徴がよく表現できていると思います。また、チーム医療の大切さが伝わってくる紹介でした。地域のケアマネジャーと顔の見える関係づくりに役立っていると思います。(医師)

今回出席者の皆様から「地域包括ケア病床と役割についてよくわかった」という声を多くいただき、担当者としては胸をなでおろしております。また、会で皆様からいただいたご意見は皆なるほどと思わせるものばかりで、この貴重なご意見は今後、当病床を地域に役立つ病床に育てていくための貴重な資料とさせていただきたいと考えております。鹿島病院ではこれからも今回のような機会を設けたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



第40回 全国デイ・ケア研究大会 2019 in 宮崎に参加して

リハビリテーション部 山成 大治、藤原 法文
在宅サービス部 大和 飛鳥

2019年7月12日～13日 第40回全国デイ・ケア研究大会に参加しました。『地域のひなたづくり』～希望を紡ぐ通所サービスをめざして～と題し、全国から通所リハビリテーションに関係する医師・セラピスト・看護師・介護士などが集合し、宮崎県宮崎市で開催されました。宮崎市の人口は約40万人と松江市の約2倍で街もにぎやかでした。街中では障がいを持たれている方も多く見受けられ、人口だけではなく風土の違いを感じました。

研究大会では5会場に分かれ講演や演題発表などが数多くありました。講演の中では今後の介護保険制度の動向について話があり、ここ数年で方針が変わる事はないということの確認や次の大改訂は2040年を目標にしていくことなど知ることが出来ました。演題発表では活動・参加に着目し、新たな取り組みをされている事業所が多くありました。今大会で得られた情報を職員間で共有し、地域の中での鹿島病院通所リハビリテーションを構築していきたいと思えます。

看護部 井谷 祥久



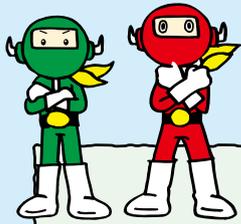
シエスタ コンサート



令和元年を迎えて5月14日にボラ・レク委員会主催で音楽コンサートを行いました。事前の予定では20人くらいかなと思ってましたが、通所リハの利用者さんたちも参加され会場に入りきれない位集まって頂き大盛況でした(50人超!)

今回お願いしたのは「シエスタ」という社会人のグループで主に松江市で活動されている5人組です(ドラマーの方は不参加で4人で来られました)。福祉施設等でもよくボランティアコンサートをされており、実際コンサートの進行もとてもスムーズでした。曲目は「りんご追分」や「ふるさと」など広く知られている曲ばかりでボーカルの女性の歌声が優しく患者さま、利用者さまたちに響いていました。機会を見てまた開催したいと思っています。みなさまのご協力に感謝します。ありがとうございました!





鹿島レンジャーに学ぶ(13)

鹿島病院の唄大合唱への軌跡



エピローグ:令和に生きるの巻(前半)

診療部 戸田 博敏

平成20年(2008年)6月鹿島病院、2代前の院長(故)小鯖覚先生が悪性リンパ腫のため松江赤十字病院に入院されました。病と闘うリーダーに「全職員による鹿島病院の唄大合唱」をサプライズプレゼントしようと鹿島レンジャーを含む有志が立ち上がりました。その顛末を報告してきました。

天が味方したか、先生が退院され、平成21年3月22日(日)鹿島病院院内研究発表大会において先生を囲んだ大合唱が実現することができました。

「鹿島病院の唄大合唱への軌跡」、いつかは、なにかの形で残したいなと思っていましたが、時はどんどん過ぎて行きます。時が経てば文章にしても内容は陳腐なものになってしまいます。関係者の記憶が薄れないうちに読んでいただくことが大切だと思いました。今回、ある程度の熱意を持って、文章にできる、ぎりぎりのタイミングだったと思います。所詮、素人が書いたもの、速攻で読み飛ばされた方も少なからずおられるでしょう。それでも構いません。連載を終えることができ、決して大げさでなく人生の目標の1つがかなえられ感謝しております。

平成28年8月30日先生は療養中だった鹿島病院を無事退院、ご家族のもと京都で在宅療養を始められました。清水保孝前院長はじめ、一部は窓に鈴なりになるほど多くの職員、知人が見送りました。

あの唄で一番いいこと：先生がいかに職員に慕われていたか、あふれるパワーをユーモアでくるんだようでした。その場では、すごさ、えらさを感じさせない、でもやっぱり、すごいなと思ってしまう先生でした。平成21年3月22日、鹿島病院院内研究発表大会、先生を囲んで大合唱の後、先生の締め挨拶、文字に起こしてみます。「で、先ほど、まあ、皆さん、私の作った唄を歌っていただいて本当に感謝しております。あの詩のなかで、私が一番言いたいこと、それは何かというと、それは皆さんのやさしさが、この鹿島町を覆いつくすんだと、そこまで頑張る。これが、あの唄で一番いいことです。その日が来るまで頑張り続けたいと思っております。」簡明でわかりやすい。でも中々こんな風に言えないです。先生は、この「学ぶ」連載中、平成29年11月にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

当時、大合唱の言い出しっぺになれたこと、企画の実現に、多少なりとも、貢献でき、多くの有能な職員の方々と協力させていただいたことは貴重な体験になりました。

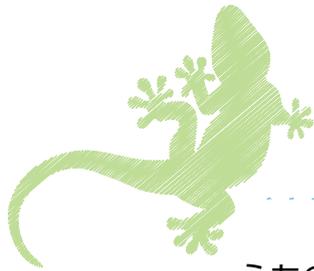
あなたのやさしさが

この街を覆い尽くすまで…♪



後半へ続く

ヒョウモントカゲモドキを 飼っています



在宅サービス部 青山 善一



うちの息子は小さいころから、図鑑をもって山や川に行っては生き物を捕まえて楽しんでいました。日本には生息しない、トカゲやヘビは、デパートの爬虫類展や岡山の爬虫類カフェに行くとヘビやイグアナなど珍しい生物と触れ合ったりしていました。その中でもヒョウモントカゲモドキというヤモリの一種の爬虫類に興味を持っていました。昨年息子から「今年の誕生日プレゼントはヒョウモントカゲモドキが欲しい」と言われましたが、ヒョウモントカゲモドキはアフガニスタンやインドに生息している為、簡単に手に入らず「大きくなってお金を貯めて買いなさい」と言っていたのですが、息子の誕生日の一週間前に、ある方から「ヒョウモントカゲモドキの赤ちゃん」をもらうという運命の出会いがあり「ポチ」という名前を付けて今でも大切に飼っています。このヒョウモントカゲモドキは生きたコウロギがエサで、今は一週間に一回、生きたコウロギを買いに行くのが日課になっています。

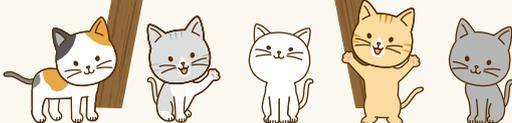


毎年恒例！

屋上バラ園で
アフタヌーンティー

診療部 瀬島 未来

今年も田井Drが愛情たっぷりに育てられたバラがきれいに花を咲かせる季節がやってきました。さまざまな色、種類、大きく咲いたものからもう少しで咲きそうなものまでたくさんのバラに囲まれてのお茶会は鹿島病院の恒例行事になりつつあります。バラのいい香りのする屋上で、今年は管理栄養士手作りのスノーボールクッキーとお好きな飲み物で患者さん、職員で楽しいひと時を過ごしました。たくさんの笑顔がキラキラする良い時間となりました。



- ①部署 ②趣味・特技は何ですか？
- ③好きなもの・好きなことを教えてください。
- ④一言ご挨拶をお願いします。

入職 50音順



鈴木 早百合

- ①看護部2階病棟 ②ランニング
- ③旅行に行くこと
- ④2階病棟でお世話になります。慣れるまでご迷惑をおかけしますが、早く仕事に慣れるように頑張りますのでよろしくお祈りします。



田中 直美

- ①診療部 ②読書・ヨガ
- ③子供たちと公園で遊ぶこと
- ④一般整形外科の分野で少しでも地域の皆様のお役に立ちたいと思っています。肩、腰、膝の痛みなど、お困りのことがありましたらお気軽にご相談下さい。



藤井 瑞江

- ①診療部栄養課
- ②フラワーデザイン・ガーデニング
- ③食べること
- ④病院での勤務は初めてで、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、おいしい食事を提供できるように頑張りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

入職 田中 直美(診療部医局医師 松江赤十字病院より派遣) / 鈴木早百合(看護部看護師) / 藤井 瑞江(診療部栄養課調理員)

退職 三浦 正也(リハビリ科) / 岩田 洋一(診療部栄養課) / 小笹 明美(診療部栄養課)

異動 在宅サービス部通所リハビリテーション准看護師 内村 千恵(看護部准看護師) / 看護部介護福祉士 藤井 留美子(在宅サービス部通所リハビリテーション介護福祉士)

任命 介護福祉士 森脇 由梨(在宅サービス部通所リハビリテーション)

職員数

職種	職員数(名)
医師	8人
薬剤師	2人
P	23人
O	19人
S	6人
看護師(准看護師)	88人
臨床検査技師	2人
診療放射線技師	1人
M S W	6人
介護支援専門員	6人
介護福祉士(介護職員)	61人
歯科衛生士	2人
管理栄養士(栄養士)	4人
調理員	9人
事務職員	17人
合計	254人

1.7.1現在

公仁会事業報告 (H31年4月~R1年6月)

※退院日は除く

患者重症度指数 強化項目 リハビリ数

鹿島病院 ①外来

診療日数62日	1日平均患者数
延べ外来患者数	1,279人 20.6人/日

②病棟 2F特殊疾患病棟

診療日数91日	1日平均患者数	
延べ入院患者数	5,398人 59.3人/日	
レスピレーター装着延べ患者数	1,550人 17.0人/日	
特殊疾患対象延べ患者数	①脊髄損傷等の重度障害	678人 7.4人/日
	②重度意識障害	2,518人 27.6人/日
	③神経難病	1,341人 14.7人/日

3か月間の特殊疾患対象患者割合	87.5%
-----------------	-------

3F回復期リハ病棟

診療日数91日	1日平均患者数
延べ入院患者数	4,830人 53.0人/日
回復期リハ病棟対象患者割合	99.6%
平均リハ提供単位数	5.9

直近6か月間の新規入院患者	重症者の割合	45.3%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合		93.5%
直近6か月間の重症改善率(4点以上改善)		69.0%
直近6か月間のアウトカム実績指数		52.4点

4F療養病棟

診療日数91日	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,701人 29.6人/日

直近3か月間の医療区分2・3の患者割合	84.9%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合(4F全体)	90.8%

4F地域包括ケア病棟

診療日数91日	1日平均患者数
延べ入院患者数	2,431人 26.7人/日
A・C項目患者の割合	22.5%
平均リハ提供単位数	2.4

直近6か月間の在宅に退院した患者の割合	79.7%
---------------------	-------

ショートステイ延利用者数	19人 0.2人/日
--------------	------------

在宅サービス部

①通所リハビリ“やまゆり”

稼働日数78日	1日平均利用者数
通所リハビリ延利用者数	2,709人 34.7人/日
短期集中リハビリ実施数	164単位 2.1単位/日

②訪問リハビリ“つばさ”

稼働日数59日	1日平均利用者数
訪問リハビリ延べ利用者数	179人 3.0人/日
訪問リハビリ延べ単位数	417単位 7.1単位/日

③訪問看護“いつくしみ”

稼働日数59日	1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医療)	260人 4.4人/日
訪問看護延利用者数(介護・看護)	703人 11.9人/日
訪問看護延利用者数(医療、介護・リハビリ)	223人 3.8人/日

④鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

稼働日数59日	月平均策定数
延べケアプラン策定数	445人 148人/月
延べ介護予防ケアプラン数	124人 41人/月





医療法人財団公仁会中期ビジョン2019

医療・介護が一体となり、リハビリテーションを柱としたサービスを展開し、急性期病院をはじめとする医療機関・介護事業所・行政機関との連携を軸に、橋北地区の地域包括システムを支える。

<ビジョン策定の主旨>

高齢化に伴う疾病の多様化・重度化さらにリハビリテーションの要求に応え、橋北地区における地域包括ケアシステムの中核病院として入院医療と在宅医療を継続的に提供するため、中期ビジョン2019を策定する。

<本計画の期間>

この計画は2019年4月から2022年3月までの3年間を期間とする。

1. 良質な回復期・慢性期医療

(1)回復期医療

回復期リハ病床を中心としたリハビリテーションの更なる充実に加え、地域包括ケア病床での短期リハビリテーションを組み合わせることで地域の回復期医療を担う。

(2)慢性期医療

特殊疾患、医療療養病床で難病、医療依存度の高い患者への対応を行い、地域包括ケア病床で入院加療を必要とする高齢患者に準急性期医療を提供することにより地域の慢性期医療を担う。

(3)質の高いリハビリテーション

回復期リハ・地域包括ケア病床でのリハビリテーションを外来・通所・訪問のリハビリテーションに繋げていくことで、地域におけるリハビリテーションを総合的に行う。

(4)外来・訪問診療

入院診療を支えるため、外来のみならず訪問診療を訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、通所リハビリとの連携で充実させる。

2. 在宅生活を支える医療・介護

(1)良質な在宅医療

患者にとって「安心な支える在宅医療」を促進するため、外来・訪問診療と訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所との連携を一層進める。

(2)良質な在宅支援サービス

外来部門、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所ならびに通所リハ、外来リハ、訪問リハが質・量ともに向上し、リハビリテーションを柱とした質の高い医療・看護を提供する。

3. 地域連携 及び 地域貢献

(1)病病連携、病診連携、地域（行政（県・市・保健・福祉・介護）、地区）連携

急性期病院や地域の診療所と継続的・定期的な意見交換会を実施するなど顔の見える連携の更なる強化を行う。また、行政との連携を深め、周辺地区事業にも積極的に関わる。

(2)予防医療や介護技術を地域へ普及

地域住民への啓発活動や医療・介護関連職種に対する勉強会等を通じて、地域に積極的に知識を還元していく。

(3)地域への情報発信

病院の機能や在宅サービス機能、治療成績、行事等についてホームページや広報誌等を活用して、積極的に情報発信を行い公仁会のブランド力を高める。

4. 医療安全・院内感染対策

(1)医療安全

医療・介護サービスを提供する全ての方へ医療安全を担保することは前提条件であり、日常から緊張感をもって業務改善に努める。

(2)院内感染対策

院内感染が起こってからの対策のみならず「発生しないための対策」「予防策をいかに取るべきか」院内感染防止対策委員会の活動だけでなく日頃からの予防教育を継続する。

5. 医療サービスの質の改善

(1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動

日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価3rdGV2.0への参加が決定し2020年1月に更新受審する予定である。日頃の診療行為等の見直しを図り、医療サービスの質の向上に努める。

(2)臨床指標（Clinical Indicator）の活用

診療報酬体系がストラクチャー評価からアウトカム評価重視へ移行する過渡期の中で、当院のアウトカムである在宅患者受入れ率や在宅復帰率、リハ効率、医療区分割合、医療看護必要度、訪問診療回数などを院内外に積極的に発信していく。

(3)患者満足度向上の組織的取組み

継続的なアンケート調査を行い患者ニーズの把握に各部署務め、満足度向上のため継続的に努力する。

(4)施設・設備・環境の整備と充実

患者のQOLに資すること、並びに職員の働きやすい環境の整備を計画的に進める。

6. 人材の確保と育成

(1)人材の確保

良質な医療・介護をより向上させる為、必要人材を適時適切に確保する。

（特に医師は現在の構成を顧みれば確保は急務である。また、薬剤師、看護職員、介護職員においても各々の自己研鑽だけでなく新たな人材の受入が必要である。）

(2)人材の育成

研修会、研究会への参加は今後も計画的・継続性をもって行い、各人の一層のレベルアップを行う。

(3)働き方改革への対応

「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」に沿った労働環境を整備し、働きやすい環境作り、離職防止の取組、キャリアアップサポート、福利厚生事業の充実など、魅力ある職場づくりを行う。

(4)学生の受入れ

学生実習の積極的受入れを行い職員のレベルアップを促すとともに、採用機会を増やすような取組みを引き続き行う。

7. 新電子カルテシステムの検討

CIMA/LinkCare、医事システム Hope のハード更新を2022年に控え、今後の電子カルテシステムはどうあるべきか検討委員会を立ち上げて検討する。





はじめました、料理部

診療部 管理栄養士 瀬島 未来



普段は部署も違えば、顔も名前も知らない・・・そんな人達と一緒に料理をし、出来上がったものを一緒に食べる。料理を通しての多職種交流っていいのでは・・・? と思い2019年4月より料理部を立ち上げました。毎回誰かが講師役をする! ということで、初回は管理栄養士が講師となり野菜ジュースで作る簡単キーマカレーを作成しました。終始和やかな雰囲気、おいしいキーマカレーが完成しました。今後もおいしい料理を多職種で囲めたらいいなと思っています。



編集後記

昨年は記録的な猛暑が続きました。今年は7月8月と平年並みか低い予想のようです。近年暑いか寒いかが極端で、過ごしやすい期間が少ないと感じるのは私だけでしょうか?

健康の基本は食事、睡眠、適度な運動。そして、日常の何気ないことをうれしく感じるころでしょうか。

夏を楽しく乗り切りましょう。

広報委員会

■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団公仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1

e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/

鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221

訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640

やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645

通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637

鹿島病院デイサービスセンター

TEL(0852)82-2665(代) FAX(0852)82-9221

■印刷元 柏村印刷株式会社

